会　務　報　告

令和 5 年 11 月 11 日

令和 5 年度事業計画･実施経過報告

I. 出版編纂事業

1. 機関誌「東方學」の刊行

○第 146 輯（令和 5 年 7 月末刊、140 頁、1,900 部）

(論文) 今西祐一郎、金子修一、馬場紀寿

(内外学界消息) 堀伸一郎

(座談会)「先学を語る」――村上哲見先生 (企画・司会：浅見洋二)

(編輯後記) 橋本秀美

○第 147 輯（令和 6 年 1 月末刊行予定、校正作業中）

(論文) 三浦秀一、高村武幸、池　麗梅、静永　健、岸本美緒

(内外学界消息) 吉田　豊

(座談会)「学問の思い出」――森安孝夫先生を囲んで（企画・司会：荒川正晴)

(編集後記) 渡辺美季

○第 42 回東方学会賞

選考委員：大津　透、金子修一、川合康三、野間文史、藤井教公

授賞者：宮崎展昌：論文「金刻大蔵経の現存版本にみえる契丹蔵からの影響について――高麗蔵再彫本に残された注記を手がかりとして」(「東方学」第百四十二輯)およびこれと関連する研究活動

2. ACTA ASIATICA：Bulletin of the Institute of Eastern Culture 及び英文単行本の刊行

(1) ACTA ASIATICA の刊行

○No.125 (令和 5 年 8 月刊、110 頁、700 部)

The Emergence of Landscape Poetry（「山水詩の出現」、責任編集：小南一郎）

序文：小南一郎、論文:佐竹保子、齋藤希史、小南一郎、堂園淑子、中西久味、村田みお

○No. 126 (令和 6 年 2 月刊行予定、校正作業中)

The Han-Ch'in Transition from the Perspective of Historical Archaeology (特集「歴史考古学からみた漢晋変革」、責任編集：岡村秀典)

序文：岡村秀典、論文：朱　岩石、向井佑介、森下章司、岡村秀典、小林　聡

(2) 英文単行本の刊行

昨年度からの継続事業として池田知久『老子―その思想を読み尽くす』(講談社学術文庫) の改定英文版 *A New Study of the* Laozi*'s Thought: Based on the Mawangdui Texts* (巻末に馬王堆帛書甲本に基づく原文を付す) を刊行した。

令和 5 年 9 月刊、A5 判、ハードカバー、本文 11P・注 9P、総 606 頁、定価 6,000 円

3. Transactions of the International Conference of Eastern Studies (国際東方学者会議紀要）の刊行

○第 67 冊（令和 6 年 1 月刊行予定、校正作業中）

本年度においては、第 67 回国際東方学者会議（ICES）及び併設開催した第 4 回中国文化

研究国際論壇の運営経過、研究発表のフルテキスト(2 篇)、要旨(54 篇)、チェアパーソンズレポート(8 篇)、講演要旨(2 篇) 等を収録し、第 67 冊として刊行する。

4.「東方學會報」の刊行

○No. 124 (令和 5 年 7 月刊、48 頁)

○第 67 回国際東方学者会議の開催―4 年振りの対面開催に 8 ヶ国 272 名が参加―

［シンポジウム報告］

I.　中国文献の異伝・異文と日本古典芸能（今西祐一郎）

II.　玄奘三蔵の築き上げた唯識の教義と実践、そしてその日本的展開（佐久間秀範）

III. 鄭振鐸『中国俗文学史』とその後―歌謡と説唱研究の展開と課題（髙津孝）

IV. ユーラシアのなかの嘉慶維新（1799）(豊岡康史)

V.　中国鬼神論の最前線（戸倉英美）

VI.「志」からみた漢唐間の政治文化（岡田和一郎・永田拓治）

東洋美術史部会（板倉聖哲）

○海外学者の招聘

○第 4 回中国文化研究国際論壇の開催（渡邉義浩）　　○会費免除会員

○［研究室便り･第 94 回］中央大学東洋史学研究室（阿部幸信）　　○新会員紹介

○［役員改選］斎藤明教授が理事長 2 期目に就任― 一般財団法人東方学会第 7 期執行部の発足　　○訃報　　○退会者　　○会員通信

○若手研究者の研究会等支援事業

［報告］東アジア村上春樹研究会（権慧)、大元大明研究会（高橋亨）

○国際集会案内（第 74 回）

○No. 125 (令和 5 年 12 月末刊行予定)

令和 5 年度秋季学術大会の記事を中心に編集する。研究室便りは大谷大学の浅見直一郎教授に執筆委嘱を行った。

II. 内外学界交流事業

1.　第 67 回国際東方学者会議（ICES）の開催

本年度においては、第 67 回 ICES を 4 年ぶりに下記プログラムをもって対面で開催した。参加申込者 8 ヶ国 272 名（うち日本人 198 名、外国人 74 名)。

〔東京会議〕　5 月 20 日(土)、日本教育会館 7・8 階会議室

○シンポジウム（カッコ内は企画責任者)

I: 中国文献の異伝・異文と日本古典芸能 (今西祐一郎)

II: 玄奘三蔵の築き上げた唯識の教義と実践、そしてその日本的展開（佐久間秀範）

III :　鄭振鐸『中国俗文学史』とその後―歌謡と説唱研究の展開と課題（髙津孝）

IV : ユーラシアのなかの嘉慶維新(1799) (豊岡康史)

V : 中国鬼神論の最前線 (戸倉英美) (Zoom によるオンライン併設)

VI :「志」からみた漢唐間の政治文化（岡田和一郎・永田拓治）

○東洋美術史 **(**司会：板倉聖哲、根立研介**)**

○歓迎パーティ

〔関西部会〕　5 月 27 日(土)、京都市国際交流会館イベントホール

〇講演会

Christophe MARQUET：庶民の神仏画としての大津絵についての一考察

末永高康: 礼経と記の成立

〇懇親昼食会

〇参観：大津市歴史博物館、園城寺

2. 海外学者の招聘

第 67 回国際東方学者会議（ICES）と令和 5 年度秋季学術大会の開催に際して、下記の 2 ヶ国 3 名の海外学者を招聘した。

劉　瑩（中国、浙江大学教授）

李侑儒（台湾、国家海洋研究院助理研究員）

張文薫（台湾、台湾大学台湾文学研究所副教授兼所長）

3. 中国社会科学院歴史研究所との交流

中国社会科学院古代史研究所（2019 年 4 月歴史研究所から改称）との間で 2009 年に交流協定を締結し「中国古代史論壇」を 10 回にわたって中国と日本で交互開催してきた。新たに「中国文化研究国際論壇」を交互に開催する 5 年間の交流協定を締結し、2019 年 8 月末に第 1 回会議が厦門大学において開催された。2020 年は新型コロナウイルス蔓延のため延期し、2021・2022 年はオンライン開催、本年も下記の通りオンラインで開催された。

〔第 4 回中国文化研究国際論壇〕

日時：2023 年 5 月 20 日(土)・21 日(日)、オンライン開催

テーマ：中国古代における軍事と国家統治

発表：日本側 7 名、中国側 10 名

4. 秋季学術大会及び講演会等の開催

(1) 秋季学術大会の開催

令和 5 年度秋季学術大会は、東京支部主催により下記の通り開催する。

〔令和 5 年度秋季学術大会〕

11 月 11 日(土)、午前 10 時～午後 7 時 30 分、会場：日本教育会館 8 階会議室

〇講演会：10 時 10 分～12 時 20 分

中世初期ベンガルの書記集団――碑文から読まれるその台頭と多様な活動

東京大学東洋文化研究所教授　古 井 龍 介

唐代の贈答詩と書簡――古代日本の歌序・詩序を視野に入れて

京都大学大学院文学研究科准教授　永 田 知 之

〇シンポジウム：1 時 20 分～5 時 10 分

1：百年の台湾文学――日本語作家から現代 LGBT・フェミニズム作家そして記憶の魔術師まで（企画責任者：藤井省三）

発　表：張 文薫（台湾大学台湾文学研究所副教授兼所長）、松崎 寛子（日本大学文理学部特別研究員）、八木 はるな（中央大学准教授）、赤松美和子（大妻女子大学教授）、明田川聡士（獨協大学准教授）

コメント：河原功（一般財団法人台湾協会参与）、星名宏修（一橋大学教授）、山口守（日本大学教授）、謝惠貞(文藻外語大学副教授)、垂水千恵（横浜国立大学名誉教授）

２：日本古写経の新たな位置づけ（企画責任者：落合俊典）
発　表：落合俊典（国際仏教学大学院大学教授）、高田時雄（京都大学名誉教授）、杉本一樹（奈良文化財研究所客員研究員）、林寺正俊（北海道大学教授）

○東方学会賞贈呈式 5 時 20 分～40 分

(2) 講演会等の開催

本年度においては、本会の所属する東洋学・アジア研究連絡協議会のシンポジウム「東洋学・アジア研究の最前線――AI の活用と課題」は、12 月 2 日(土) に東京大学国際学術総合研究棟文学部 3 番大教室において開催される（II-9 参照)。

5. 翻訳・校訂サービスの提供

国際学術交流推進の基礎的事業として、東方学関係の論文、論文要旨、国際会議発表ペーパーの英訳及び英文校訂（ネイティブチェック）の有料サービスを継続実施しており、本年度においても着実に実績をあげている。

6. 若手研究者の研究会等支援事業

23 年度より開始した若手研究者の企画する学際的な研究会等に 1 件 5 万円、年間 10 件までの支援を行う本事業は、申し込みを 45 歳未満の会員とし、報告書の提出を求めている（800 字以内、『会報』・ホームページ収載)。本年度は追加募集を含め下記 3 件の申請を採択した。

〔令和 5 年度採択分(開催順)〕

1) 申請者：高橋亨（東北大学学術研究員）　42 歳
会議名：大元大明研究会
開催日時：2024 年 2 月以降
会　場：東北大学 or 早稲田大学

2) 申請者：権　慧（早稲田大学助教）　37 歳
会議名：2023 年東アジア村上春樹研究会国際シンポジウム
開催日時：10 月 12 日
会　場：早稲田大学大隈記念タワー

3) 申請者：桜　聰太郎　29 歳
会議名：朝野群載研究会――平安時代地方行政文書の多角的検討
開催日時：2023 年 6 月 27 日、7 月 11 日
会　場：東京大学法文 2 号館日本史学研究室

8. 国際アジア・北アフリカ研究会議（ICANAS）関係業務

ICANAS に関する情報はなく、休眠状態にある。

9. 東洋学・アジア研究連絡協議会の事務局業務

平成 16 年 12 月に設立された標記協議会については、本会がその事務局業務を担当している。同協議会には、現在 34 学協会が所属しており、12 月 2 日(土) に総会と下記シンポジウムを開催する予定である。

シンポジウム「東洋学・アジア研究の最前線――AI の活用と課題」
会場：東京大学国際学術総合研究棟文学部 3 番教室

日時：12 月 2 日(土) 午後 1 時 30 分～5 時 30 分

発表：大向一輝（東京大学准教授）：人工知能技術の内実と可能性

カラーヌワット・タリン（Google DeepMind Senior Research Scientist）: AI くずし字認識と大規模言語モデル―日本古典籍から情報を取り出す新しい方法

上原かおり（フェリス女学院大学准教授）： 同時代の中国文学に見る AI

宮川　創（国立国語研究所助教）：歴史言語学におけるコーパスデータの整備・分析に AI を活用する―エジプト語史の視点から

下田正弘（武蔵野大学教授）：アジアからの発信――学術会議分科会活動報告とその一事例

10. 「儒蔵」日本編纂委員会の事務局業務

平成 18 年 9 月に発足した「儒蔵」日本編纂委員会の要請を受けて事務局を担当していたものの活動停止状態にあったが、本年度中国側の強い要望を受け、橋本秀美教授を中心に日本側担当者を再編し、再出発することとなった。

11. ホームページによる情報の提供

平成 14 年 4 月 16 日にホームページを開設して以来、逐次補充更新して広く内外学界及び一般からのアクセスに応えている。

III.　図書室事業

1. 内外研究情報･資料の交換･斡旋

内外学界における関係団体機関及び研究者との間に情報の提供や本会の出版物の寄贈・交換を行う本事業については、従来通り本会の出版物を継続送付しているが、コロナ禍のため送付できないところが増えている。

2. 図書室の整備

内外学界・大学研究機関より交換・寄贈を受けた東方学関係図書・雑誌・研究資料、及び本会購入図書の収納・整理を行う。

3. 録音資料の作成（座談会の開催）

本年度においては、「学問の思い出」シリーズで 12 月に村井章介先生を、3 月に石澤良昭先生を取り上げ、下記の通り座談会を開催する予定である。

「学問の思い出」――村井章介先生を囲んで（『東方学』第 148 輯に収載予定）
日時：12 月 1 日（金）午後 1 時 30 分～4 時 30 分
会場：学士会館

「学問の思い出」――石澤良昭先生を囲んで（『東方学』第 149 輯に収載予定）
（詳細未定）

IV. 会員関係事業

1. 会員現況（令和 4 年 10 月 25 日現在）総数 1,287 名

2. 全国会員総会の開催

平成 24 年度より従来の総会における講演会・シンポジウムを秋季学術大会として開催し(別項 II-5)、会務報告を会員総会として開催する。

○第 73 回全国会員総会（令和 5 年 11 月 11 日［土］）

会務報告　5 時 40 分～50 分　　理事長　斎 藤　　明

3. 要覧・会員名簿の刊行

『東方学会会員名簿』および『東方学会要覧』は、隔年の刊行で、本年度においては 6 月の役員改選に伴う第 7 期役委員名簿を付載して、それぞれ下記の通り刊行する。

『東方学会会員名簿（2024 年版）』

2023 年 12 月 22 日刊行予定、A5 判、約 200 頁、1,400 部

『東方学会要覧（2023 年版）』

2023 年 7 月 25 日刊、B5 判、70 頁、150 部

以　上